

令和元年度（2019年度）

自己評価 報告書

学校法人福岡保健学院
下関看護リハビリテーション学校
看護学科

（※令和2年4月より法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更）

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の看護学科教員の自己評価結果を記したものである。

令和2年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者
副学校長兼教務部長 森寺 智子

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的・方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（9名）

委員氏名	所属
林 研二	下関看護リハビリテーション学校 学校長
鮫島 陽子	下関看護リハビリテーション学校 顧問
木村 公治	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副学校長兼事務長代行
森寺 智子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長代行兼教務部長
藤本 一美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長
佐野真由美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
上田 雅子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務主任
林 輝真	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副教務主任
小林 愛	下関看護リハビリテーション学校 看護学科実習調整者

（委員会自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する）

3) 自己評価方法

平成元年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価の結果と併せて、健全な画工運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評定基準にて実施する。

1) 評定基準

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
 A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 項目Ⅱ 学校運営
 項目Ⅲ 教育活動
 項目Ⅳ 学修成果
 項目Ⅴ 学生支援
 項目Ⅵ 教育環境
 項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
 項目Ⅷ 財務
 項目Ⅷ 法令等の遵守
 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧・パンフレット・HP 等で広く公表することで周知を図っている。教育理念に基づいて学年毎の到達目標を作成し、学生に提示し、学生も 1 年間のクラス目標・スローガンを立て、それを基に個人の目標を立てて勉学に励んでいる。年度初めに講師会議を行い、また毎月の実習指導者会議において意見交換を行っている。現在実施している周知の方策を継続し、理解を促していく。

課題

特になし

改善の方策

今後も継続する。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り、学校案内・ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: A

■コメント

教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに福岡保健学院の方針が出され、それに基づき学校の教育方針、重点目標を設定している。年度初めに管理目標を提示し、各学年運営と教員の個人目標を設定し、9月に中間評価、3月に年度末評価を行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定の場として十分に機能し、教職員の意思統一が図れている。

情報システムについては、学事サーバーにて情報管理を行って業務の効率化を図っている。職員間の情報交換に関しては、学内にファイルサーバーを設置し活用している。

現在に至るまで、情報管理について大きな問題は生じていないが、セキュリティの向上を図るために、研修会サイバーパトロールへの参加を行った。今後もタブレット端末を使用しての実習も始まるため、セキュリティ強化を図っていく必要がある。校内に Wi-Fi 環境を整え、情報伝達技術（以下 ICT と記す）活用できるようになった。それに伴いタブレット端末を用いて電子テキスト・授業支援アプリを用いている。講師にも説明し、学生が学びやすいように調整している。

課題

情報セキュリティについては、教員の教育等も含めて今後も強化を図っていく必要がある。

改善の方策

情報セキュリティや個人情報保護について研修会等を実施していく。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載のとおり策定されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか。

■自己評価: A

■コメント

運営方針・計画は学科会議にて全員に意思統一を図り、学科会議で提案されたことは、最終的に管理会議、学校運営会議で決定される。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

学事サーバーやファイルサーバーの設置、ICT教育の推進により、効率化を図っている。

共有フォルダは今後安全面を考慮し、閲覧不可のフォルダを作成する予定である。また、関連学校の会議は TV 会議を用いるなど、効率化を図っている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い、教育課程編成を考え、学年別の到達目標を挙げている。学生の理解や意欲の状況を見ながら学習の支援を行っている。継続して教員は各自が授業計画を立案し、学科会議で検討している。授業は各科目の終了時に学生の評価を受け、教員はアンケート評価を分析し、次回の授業に活かしている。アンケートに答え易い様に来年度は QR コードを使用する方向へ検討中である。

キャリア教育に関しては、1年次より段階的にスキルアップできるように、教科外活動を含め、カリキュラムに組んでいる。また、他職種連携教育（以下 IPE と記す）を理学療法学科と共に実施し、知見を得たので、来年度からも取り組む予定である。

課題

学力面でサポートがかなり必要である。

改善の方策

今後も、低学力者を把握し、小人数を対象とした補習や個別対応を行う。

全体には毎日数問の課題を出し、解答することで学習を継続させ、知識の定着を図る。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載のとおり実施されている。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育課程編成委員会ならびに実習委員会を通じて工夫を行っている。

キャリア教育については、1 年次より計画的に特別講義や特別講演等取り入れている。

今年度 iPad を用いて、電子テキストを使い、講義演習を行っている。効果的に活用できるよう、教員全員に研修を実施し、それぞれが講義の工夫を行っている。理学療法学科と共に iPad を用いて、高度シミュレーターを使用する IPE も実施した。今後 3 年間の IPE の計画を立案し、実施していく予定である。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

授業終了時に学生へのアンケート評価を実施。その分析を行って、教員間でも次年度のカリキュラム作成に活用している。継続する。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント

現役で 100% 国家資格取得を目指しており、1 年次より授業の工夫、人体骨格模型(ペーパークラフト)の導入等を実施し、研究としてもまとめられている。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取り組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

研修会や学会への参加を義務付けており、教員の研鑽意識も高い。研究としてまとめ、学会発表と雑誌掲載をする予定である。

項目 IV 学修成果**総括**

就職に関しては、開校以来 100% を達成している。

国家試験結果に関しては、合格率は 100% ではなく、教員全員で 100% 合格に向け、1 年次より取り組んでいる。しかし入学生の状況は選定できる状況ではなく、学習習慣のついていない学生がほとんどである。学力不振者に早期から関わることや、保護者面談等を通じて学生の生活習慣から関わる等の対策を行っている。

スクールカウンセラーが定期的に来校し、活用している。

課題

入学生の学力が低下傾向にあるため、早期から対策を実施していく必要がある。

改善の方策

ICT 教育等を有効に活用して、効率的な学習を行えるように工夫を重ねていく。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

開校以来、就職率 100% を達成している。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: B

■コメント

過年度の反省を踏まえて、国家試験対策を 1 年次から実施している。国家試験不合格者へのフォローも実施している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: B

■コメント

退学率の低減を図るため、始業早期から低学力者及び意欲低迷者の支援を開始している。ス

クールカウンセラー及び保護者との連携を図って、必要時面談を実施している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

学生のボランティアや地域でのサークル活動など把握に努めて、今後もボランティア活動など推進していく。

項目 V 学生支援

総括

各学年担当制、副担当制を取り、定期的に学生との面接を実施している。成績や出席状況に合わせ、保護者とも連絡を取り合い、年に 1 回保護者会を開催し、学校生活の状況や国家試験に向けての取り組みなど説明し、連携を図っている。就職活動セミナー、マナー講座、関連病院見学、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立てている。

学校を 18 時まで使用でき、自主的に自由にシミュレーターなど活用することもできる環境の提供を心掛けている。

課題

学習習慣を持たない学生が入学してくる実態もあり、今後も支援を強化していく必要がある。

改善の方策

信頼される学校づくりの基本として、国家試験合格率100%を目指し、1 年次の早期から学習状況を把握し、面談を実施しながら学力の向上を図る。適宜学習成果のテストを実施し、振り返りを行う。

教科外活動を毎年見直し、特別講義や特別講演を取り入れる。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

グループ校との連携による求人情報提供、市内 4 施設の就職説明会、就職支援セミナーや履歴書作成、面接指導などを行っている。図書室に就職関連の資料管理を行っており、自由に閲覧できるようにしている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

教職員に相談しやすい環境づくりやスクールカウンセラーによるカウンセリング等、学生相談に対する支援体制は整えている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント

各学年担当・副担当制をひき、学生の学習状況を常に把握するように努めている。遅刻や学業不振に対して早期に面談を実施し、改善が難しい場合には保護者と連絡し、必要時面談を行うようにしている。年に 1 回保護者会を開催し、連携を取っている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

中学校・高等学校に対しての職業講話や、体験授業を積極的に受け入れている。

高校より依頼の授業協力等も積極的に取り組んでいる。

高校教諭の先生方と説明会を持ち、看護学校での学びなど説明している。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント

遠方の学生に対して、安価な学生寮の提供、学生に弁当・パンの購入費補助等を行っている。寮自治とも話し合いを設け、清掃や除草、備品購入など生活環境改善を図っている。

項目Ⅵ 教育環境

総括

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。

ICT 教育についても今年度は WIFI 環境を整え iPad で電子テキストやソフトを用い、ICT を進めている。

理学療法学科と共に在ることを活かし、シミュレーション教育を取り入れ、IPE も実践した。今後も 3 年間を通しての学びを計画する予定である。

卒業生に対しても図書室等の利用を可能とし、卒後のスキルアップに活用できるようにしている。

防災訓練についても、計画を立てて防災避難訓練を年 2 回実施している。また、関連病院の防災訓練にも参加し、防災意識を高めている。

課題

職業実践専門課程の認定を取得しており、今後も日々進歩する医療情勢に対応できるような人材育成を目指す。そのために学生が自主的に自由に学習できる環境(高度化シミュレーター等)を整えて、演習を組み入れていく。

改善の方策

設備・備品については、購入計画を立てて充実を図っていく。

シミュレーションができる実習室の配置を理学療法学科と共に考え、演習を組み入れていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載のとおり、計画的な充実が図られている。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

今後も実習施設との連携をはかり、実習環境を整えていく。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

今後も防災避難訓練等を計画的に実施していく。

項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、高校教員向け学校説明会を年 2 回開催、学校ガイダンス等にも積極的に参加している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

高校から信頼をして学生を送っていただける学校、地域から認められる学校を目指して学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

高校教員向け学校説明会において、現在の医療情勢等や本校の教育について説明を行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S

■コメント

資格取得状況ならびに就職状況についても、正確に伝えしている。

項目Ⅷ 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う 2 重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

全教職員へも学校経営に関する意識づけを行うために財務に関する情報を伝えていく。

改善の方策

年度中間・年度末に学校長・事務長・両学科副学校長・経理担当者で確認を行うとともに、全職員へも周知を行っていく。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: B

■コメント

学校法人としての財政は安定している。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: B

■コメント

有効かつ適切に実施されている。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A

■コメント

適切な会計監査が行われている。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNS の取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間では SNS 等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿などが問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNS ならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

適切に運営されている

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント

適切な対策が取られている。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

関連病院等に施設を貸し出し、また高齢者体験キッド等教材の貸し出しも実施している。地域

に対して本校はボランティア活動を推奨しており、地域の清掃活動や障がい者支援に学生や教職員が積極的に参加し、貢献している。

課題

試験や実習等の重要な学事に重ならないボランティアを増やす。

改善の方策

地域と連携を取りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自の地域清掃活動などを継続していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

今後も施設及び教材の貸し出し等協力をしていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

学校として、ボランティア情報収集や学生への周知・集約等、ボランティア活動を継続して支援していく。